

# 顔学会ウラの力オ

～学会運営に携わる委員会のご紹介～

## 大会担当

大会担当は、年次大会「フォーラム顔学」のサポート役です。フォーラム顔学の主催者を探し、打診し、理事会で検討していただき、お認めいただいたら正式に依頼し、お引き受けいただいたら、スムーズな大会運営をサポートする、というのが仕事です。

私（阿部）は2014年から理事となり、同時に大会担当となりました。その前の年、2013年に、仙台大会の



辻 美千子 阿部 恒之 湯浅 将英

事務局長を務めた経験を買われての任命だったのだらうと思います。現在、辻美千子理事、湯浅将英理事補佐の三名で担当しています。

大会を主催するというのは、かなりの大仕事です。ですから、スムーズにお引き受けいただけるとは限りません。打診して断られるのはショックですが、断る側も、断ることで心の負担が生じることでしょう。そう想像すると、打診することをますます躊躇してしまう…というジレンマに陥ります。しかし、それゆえ、お引き受けいただけたときの嬉しさはひとしおです。

奥水大和前会長曰く、「大会は法事のようなもの」であり、顔学会員が年に一度集い、顔を合わせる貴重な機会です。その機会を途切れることなく提供するという大任を担っていると思うと、身が引き締まります。コロナ禍においても、慶応義塾大学（2020）、立命館大学（2021）ではweb開催をしていただき、画面越しであっても、年に一度、顔を合わせる機会を作っていただいたことは、ありがたい限りです。

今年、2022年度は、9月17・18日、香川大学で、久しぶりの対面開催が実施できそうです。皆様、四国・高松でお会いしましょう。

日本顔学会 理事（大会担当）東北大学 阿部 恒之

## 第27回日本顔学会大会（フォーラム顔学2022）のご案内

■大会日程：2022年9月17日（土）、18日（日）

■参加費：（会員・非会員とも）一般：5,000円、

■大会会場：香川大学 林町キャンパス

大学生・大学院生・高校生以下：3,000円

- 大会長・実行委員長：林 純一郎（香川大学）
- 実行委員：井上 恒（香川大学）／佐藤 敬子（香川大学）／柴田 悠基（香川大学）／青木 義満（慶應義塾大学）／瀬尾 昌孝（大阪工業大学）／藤原 孝幸（北海道情報大学）／飛谷 謙介（長崎県立大学）／浮田 浩行（徳島大学）／寺田 賢治（徳島大学）

## スケジュール（予定）

### ●1日目 9月17日（土）

9:30～	開 場
10:00～10:30	開 会（開会の挨拶、諸注意）
10:35～11:50	口頭発表1（5演題）
11:50～12:05	企業展示・ショートプレゼンテーション
12:05～13:00	昼休み（ポスター・作品展示紹介）
13:00～14:00	ポスター発表1・作品展示1・企業展示
14:00～15:15	口頭発表2（5演題）
15:20～16:20	特別講演1（寺林 優氏） 『四国の岩石の顔であるサヌカイトについて』
16:20～16:40	総 会 ※会員の方はご出席ください。
17:00～	イブニングシンポジウム

### ●2日目 9月18日（日）

8:30～	開 場
8:55～9:00	開 会（諸連絡）
9:00～10:00	口頭発表3（4演題）
10:10～11:10	特別講演2 新学術領域「顔身体学」特別企画シンポジウム 『マスク顔の今後の影響』
11:20～11:35	企業展示・ショートプレゼンテーション
11:40～12:40	昼休み（ポスター・作品展示紹介）
12:40～13:55	口頭発表4（5演題）
14:00～15:00	ポスター発表2・作品展示2・企業展示
15:10～16:10	口頭発表5（4演題）
16:10～17:00	表彰式・閉会（閉会の挨拶）

※今大会は対面とオンラインのハイブリッド形式で開催予定ですが、最新情報は大会サイトをご確認ください。

◆詳細は大会サイトへ <https://www2.jface.jp/forum2022/>



発行：日本顔学会 © 編集・製作：日本顔学会 J-FACE 編集委員会 日本顔学会事務局  
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 バルセサイドビル 9F 株式会社毎日学術フォーラム内 TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555  
発行日：2022年9月2日 \*無断転載を禁じます。

# J-FACE NEWS LETTER

日本顔学会ニューズレター 79号



2 SEPTEMBER 2022 Vol.79 <https://www.jface.jp>

## Contents

- P1. Now the Face
- P2. 顔学オンラインサロン報告 第35回～第37回／化粧文化研究者ネットワーク研究会 開催報告
- P3. 美人画研究会活動報告・顔学会連携企画Zoomミーティング報告／図書紹介
- P4. 顔学会ウラの力オ／第27回日本顔学会大会（フォーラム顔学2022）のご案内



### 【フォーラム顔学2022 特別講演】日時予定：2022年9月17日（土）15：20～16：20 四国の岩石の顔であるサヌカイトについて 寺林 優（てらばやしまさる）氏（香川大学創造工学部・教授、香川大学博物館・館長）



◇略 歴	2013 文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）
1992 東京大学大学院博士課程理学系研究科	2015 Wiley社Island Arc Most Downloaded Awards
地質学専攻退学	2016 日本地質学会Island Arc賞
1992 香川大学教育学部・助手	2018 環境大臣表彰（第37回温泉関係功労者）
1994 香川大学教育学部・講師	2019 文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）
1996 香川大学工学部・助教授	2020 高松市文化奨励賞（顕彰部門）
1999 東京大学論文博士（博士（理学））	2014～2016 高松市こども未来館の展示設計を監修
2007 香川大学工学部・准教授	2021～ 大学博物館等協議会・会長
2011 香川大学工学部・教授	2021～ 日本博物科学会・会長
2011～ 香川大学博物館・館長	◇専門分野・研究分野
2018～ 香川大学創造工学部・教授	地質学、岩石学、博物館学
2008 日本地質学会論文賞	

## 講演概要

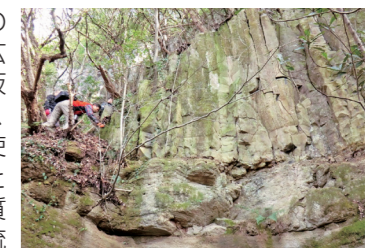
サヌカイトは、中新世（約2300万年前から約530万年前まで）の瀬戸内火山岩類を代表する岩石で、約1400万年前に瀬戸内周辺で噴出したマグマが冷え固まったガラス質石基が多い黒色緻密な安山岩です。その打撃音から、合図用や石琴などの打楽器として用いられ、讃岐（香川県の旧国名）では、古くから「カンカン石」と呼ばれて親しまれてきました。1964年東京オリンピックでは、サヌカイトを使った音楽が選手村食堂で流されており、東京2020オリンピックでは開会式で流れた音楽の一部にも使われました。NHKプラタモリ「日本の岩石スペシャル」（2021年4月17日初回放送）で、タモリさんが叩いて音色を出していたサヌカイト楽器は、香川大学博物館の所蔵品で常設展示されており、来館者に人気があります。

サヌカイトは、東京帝国大学で初めて地質学を教授したナウマン博士がドイツに持ち帰った岩石試料をヴァインシエンク博士が研究して、代表的な産地である讃岐にちなんでSanukit（英語名はSanukite）と1891年に命名されました。世界的にも有名になり、日本でも「讃岐岩」として知られるようになりました。1919年には小藤文次郎がサヌカイトと近縁な性質を有する瀬戸内地域の中新世火山岩をサヌカイト類（サヌキトイド）と名付けました。サヌカイトは、香川県坂出市の国分台周辺や大阪府と奈良県の境にある二上山周辺で主に採取されます。

2016年に日本地質学会が全国47都道府県について、特徴的に産出する、あるいは発見された岩石・鉱物・化石を「県の石」として選定しましたが、サヌカイトは、香川県の岩石に選ばれました。ちなみに香川県の鉱物は「珪線石」、化石は「コダイアママ」です。さらに四国の他県の岩石として、徳島県は「青色片岩」、高知県は「花崗岩類（閃長岩）」、愛媛県は「エクロジャイト」です。

サヌカイトは、非常に硬く、割ると鋭利な角稜や貝殻状の割れ口を呈することから、旧石器時代から弥生時代まで、矢尻や石刀などの生活用具として大きな役割を果たしました。

サヌカイトは、石器の石材の中で西日本において最も広く使用されました。香川県坂出市金山産のサヌカイトは、縄文時代以降、最も多量に使用されました。その理由として、埋蔵量の卓越性、石質（加工・機能）の優秀性、流通システムの優位性などが考えられています。香川大学考古学研究室（丹羽佑一名誉教授、香川大学博物館前館長）は、2006年から4年間、金山で発掘調査を実施し、石器生産の実態を明らかにしました（科学研究費補助金基盤研究B「香川県金山産サヌカイト製石器の広域流通システムの復元と先史経済の特質の検討」研究代表者：丹羽佑一、研究分担者：寺林優ほか）。コンテナ1000箱を越える出土品の大半は「板状石核」と呼ばれる石器素材の失敗品と板状石核の製作工程で生じる石屑でした。旧石器時代の石器生産は低調で、縄文時代・弥生時代前期には「板状石核」を主とし、打製石斧（石鏃）以外の成品生産はなく、弥生時代中期に至って板状石核から大型剥片を生産しました。



高松市のランドマークともいえる「屋島」には、古代山城屋嶋城、鑑真が創建したと伝えられる屋島寺、源平合戦屋島の戦いの古戦場跡があります。テーブル状の台地で、山頂近くが侵食と崩落によって絶壁となっている典型的な「メサ」として、また、通称「畳石」と呼ばれる安山岩の板状節理が美しいことから1934年に国の史跡と天然記念物に指定されました。2012年度と2013年度に、香川大学天然記念物屋嶋調査団が地形・地質、生物、気象から景観にいたるまでの調査をしました。今回の講演では、演者が関わった地質や岩石の研究成果の紹介とともに、日本列島の形成における瀬戸内火山類の位置付けについてもお話したいと思います。（寺林 優）

高松市のランドマークともいえる「屋島」には、古代山城屋嶋城、鑑真が創建したと伝えられる屋島寺、源平合戦屋島の戦いの古戦場跡があります。テーブル状の台地で、山頂近くが侵食と崩落によって絶壁となっている典型的な「メサ」として、また、通称「畳石」と呼ばれる安山岩の板状節理が美しいことから1934年に国の史跡と天然記念物に指定されました。2012年度と2013年度に、香川大学天然記念物屋嶋調査団が地形・地質、生物、気象から景観にいたるまでの調査をしました。今回の講演では、演者が関わった地質や岩石の研究成果の紹介とともに、日本列島の形成における瀬戸内火山類の位置付けについてもお話したいと思います。（寺林 優）



### 顔学オンラインサロン報告 第35回～第37回

顔学オンラインサロンは引き続きzoom方式により月1回のペースで継続しています。

#### ○第35回 2022年5月10日(火)

話題：あなたは知り合いとの会話をどう始めますか？  
～人同士の会話はどう始まるのか～

話題提供者：東京電機大学システムデザイン工学科教授  
武川 直樹氏

コロナ禍で遠隔ツールでのコミュニケーションが盛んになったが、対面と比較して、顔を合せ、視線を交わし、手をあげるなどの面でまだ不十分だといえる。武川先生からは、対面の会話のほか、視線一致映像会話装置やZoom、そしてoVice(アバター同士の会話によるヴァーチャルオフィス空間)などのさまざまなツールでの会話の研究事例から、コミュニケーションには何が大切であるかについてご発表いただいた。

#### ○第36回 2022年6月14日(火)

話題：男性の魅力とメイクアップ

話題提供者：同志社大学心理学部教授 竹原 卓真氏  
東北大学大学院文学研究科教授 阿部 恒之氏

心理学ではこれまで男性の魅力については稀にしか取り上げられなかったが、最近では男性のメイクアップも普通に見られるようになってきた。今回は二人の先生により、新しい分野としての「男性の魅力とメイクアップ」について、さまざまな興味深い研究結果をご発表いただいた。また竹原先生はご自身メイクアップして登場された。

#### ○第37回 2022年7月12日(火)

話題：優しい(=tender)ぬいぐるみの表情表現

話題提供者：stuffed toy designer: Design Station OOPS!  
廣田 路子氏

ぬいぐるみは人間に近い、怖くない表情、柔らかな肌触りのティディ・ベアが原点といえる。廣田先生からはまず、幼児にとつてのぬいぐるみのあり方と意味について、次いで、目をポイントに実際のぬいぐるみの顔の具体的な作り方などについて実例を用いつつ興味深いお話をいただいた。(城戸崎雅崇)

### 化粧文化研究者ネットワーク研究会開催報告

21年、22年はオンラインで活動しています。ここでは2件の研究会についてダイジェストでご報告いたします。

#### ■第58回研究会『ハゲに悩む一劣等感の社会史』読書会 日時：2021年12月18日(土)

著者の森正人先生(三重大学人文学部教授)をお迎えし、『ハゲに悩む一劣等感の社会史』(ちくま新書2013年発行)の読書会を開催しました。参加者は18名でした。

本書は、聞き覚え、見覚えのあるテレビコマーシャルから始まり、薄毛・脱毛についての評価の歴史的変遷、とりわけ近代以降、それらが近代医学的な見地から説明され直ようになった経緯が論じられます。さらに、メディアやビジネスなどによって、薄毛・脱毛現象が積極的に語られることで、劣等感や不安感が集団的なものとなっていく過程についても示されます。男性の薄毛についての感情や経験が、知識(医学など)や物質(かつら・養毛剤など)との相互作用的な関係の中で生み出されていることを実感できる内容です。



会では世話人2人による本の要約(川添)と「男らしさ」と「男性身体」の視点からの話題提供(川野)がありました。参加者からは、後頭部という自分では見えない部分を他者に見られる不安、欲望の喚起の仕方、薄毛の隠し方自体が醸し出す恥ずかしさなどのコメントがありました。

著者の森先生からは、広告や鏡など、自分と他者が作られる回路が張り巡らされている状況も指摘されました。コロナ以降、たとえば公共交通機関に掲載されている広告は、AGA、脱毛、転職サイト、結婚相談所などで埋まっています。知らず知らずのうちにそれらの価値観、世界観に巻き込まれていることに気づかされます。

身体、美、身体ケアはもっぱら女性を対象に研究されてきました。男らしさはしばしば一様なものとして捉えられがちですが、男性の劣等感、男らしさ、男性の身体について掘り下げていくことが必要だと痛感しました。

ディスカッションでは、日本の色白選好も人種差別と無関係ではないことや、私たちに刷り込まれている潜在的な差別感覚、さらにルッキズム(外見が評価対象となつてはならない場で外見が過度に評価され機会均等が妨げられる)などが話題に上りました。一例として就活における女子学生への化粧の半強制も挙がりました。また近代以降の経済体制とそれと無関係ではいられない企業及び生活者など、時間と空間を行き来する大きな視点への道筋も示されました。

※7月2日には「人類学からイェズミ・タトゥーを考える」をテーマに、『身体を彫る、世界を印す：イェズミ・タトゥーの人類学』(春風社)の著者から山本芳美さんと松嶋冴衣さんにご講演をいただきました。内容は近日中にネットワーク

#### ■第59回研究会『美白は、「差別的」とみなされるのか?』 日時：2022年3月11日(金)

BLM運動が世界的になって以降、肌の色についての認識もこれまで以上に問われるようになりました。私たちは、差別、美白、化粧、そして外見の関係をどのように考えたら良いのでしょうか。

本研究会では、第15回顔学オンラインサロンにも登場された小手川正二郎先生(國學院大学文学部哲学科准教授)をお招きしました。参加者は32名で、化粧品・ファッション業界や大学関係、個人参加など、それぞれの立場で、また通常の垣根を越えて意見を交換しあうことができました。

小手川先生は、日常的な経験に立ち止まって現象を分析する現象学をご専門とされています。紹介された事例のいくつかは、差別か、そうでないか判然とせず考えこみました。こうした「もやもや」感、ご講演を通して、区別と差別の関係、差別と差別的言動、文化的な文脈、差別構造と整理されていきました。

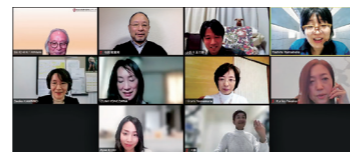
そして話題は「美白」問題へ。日本の大手化粧品メーカーは、美白商品に対して、段階的廃止、あるいは表現変更、あるいはまた欧米市場では廃止しアジア市場では継続など、それぞれに対処しているそうです。美白化粧品は、直ちに差別になるわけではないけれど、性差別、人種差別、ルッキズム、エイジズム、肌色差別が絡み合った差別的言動になるリスクがあることが指摘されました。そして完全な安全策のないやっかいな問題ではあるけれど、だからこそ多様性に目を向け、対話を続け、そして自分の美的価値観を捉え直す契機になりうると結ばれました。

ディスカッションでは、日本の色白選好も人種差別と無関係ではないことや、私たちに刷り込まれている潜在的な差別感覚、さらにルッキズム(外見が評価対象となつてはならない場で外見が過度に評価され機会均等が妨げられる)などが話題に上りました。一例として就活における女子学生への化粧の半強制も挙がりました。また近代以降の経済体制とそれと無関係ではいられない企業及び生活者など、時間と空間を行き来する大きな視点への道筋も示されました。

(川添 裕子)

HPに掲載されます。上記の報告詳細と合わせてご覧ください。  
<http://keshobunka.com/>

今回は、10月22日の予定です。顔学会MLでもご案内します。



### 美人画研究会活動報告・顔学会連携企画Zoomミーティング報告

長らくコロナ禍でZoomの活用が日常化しています。そこで、美人画と顔に関連する専門知識をお持ちの会員の方をゲストにお招きして、クリエイティブ会の松永伸子がお話を伺う形のZoomミーティングを企画いたしました。

#### ■第1回 2022年4月2日

##### 「顔を隠した美・美人・美人画」

ゲスト：高野 ルリ子先生(株資生堂、学術博士)  
米澤 泉先生(甲南女子大教授)

まず松永が、顔を隠したタイプの美人画をスライドで多数紹介し、お二人にその感想や意見を伺いました。顔が良く見えないことで生じる理想化については、高野先生が脳の機能や魅力評価、加点要素等について話していただき、米澤先生は加点要素であるファッションや現代女性の意識・傾向、そして顔がむしろ邪魔な存在になりつつあることを教えてくださいました。

参加者全体のディスカッションでは、横顔の美について馬場悠男先生がお話しくささり、活発な意見交換ができました。



#### ■第2回 2022年6月16日

##### 「思いを伝える表情・表現と美人画」

ゲスト：新木 美代先生(非言語コミュニケーション講師)  
麻生 りり子先生(能面アーティスト・脚本家)

1回目同様に松永がテーマにあった美人画をスライドで紹介し、手の所作や顔が表現する感情について伺いました。

新木先生は、絵からの感情判読は難しく読み取る能力次第である、身体を動かすと表情が豊かになる、等のことを話していただき、麻生先生は自ら製作された能面を例に、表情の揺らぎ(あいまいな中間表情)や手の所作による感情表現を教えてくださいました。その後の参加者ディスカッションでは、日本と外国の文化の違いや最近の子供や学生のコミュニケーション能力等にも話が及び、楽しいミーティングとなりました。



#### ■第28回美人画研究会・クリエイティブタイプ 2022年5月29日<森下会場>

第1回Zoomミーティングの際に米澤先生より問題提起していただいた、「美人画」という表現がルッキズムに抵触するかどうかを議論する場を持ちました。同時に現代のジェンダー問題も取り上げ、クリエイティブの描画テーマを「ジェンダーレス美人」として作品を持ち寄り、意見交換をしました。



美人画研究会としては、「美人画」という表現はルッキズムという差別とは結び付かないが、「美人」という言葉の使用には配慮が必要であるという結論に達しました。

#### ■美人画研究会主催 畑江麻里の浮世絵講座第3回 2022年6月26日<港区会場>

アカデミックタイプの会を主催する畑江さんが、初心者でも楽しめる浮世絵講座を開催しています。第3回は江戸の旅をテーマに、北斎と広重の名所絵の楽しみ方を教えてくださいました。江戸の評判美人の見分け方や歌舞伎との関連の話もあり、浮世絵鑑賞の奥深さを感じました。

7月10日・24日に、同じテーマのZoom開催がありました。



#### ■美人画研究会と仲間たち展開催

##### 2022年7月1日～7日 有楽町マルイ7階 アートフェスタ

クリエイティブ会メンバー有志7人と仲間(招待アーティスト)の美人画作品を展示(販売)いたしました。同時にメンバー内の似顔絵画家さんと共に「あなたの美人画描きます」という席描きを実施しました。(松永 伸子)



※詳細はHPをご覧ください。



### 図書紹介

化粧の力の未来  
コスメティック・サイエンスによる  
人と社会の新しい可能性  
資生堂みらい開発研究所 著



ISBN-10: 4894793172  
ISBN-13: 978-4894793170  
発売: 2022年5月  
定価: 2,900円(本体)  
発行所: フレグランスジャーナル社

興行きをなくした顔の時代  
イメージ化する身体、  
コスメ・自撮り・SNS  
米澤 泉、馬場 伸彦 著



ISBN-10: 4771035229  
ISBN-13: 978-4771035225  
発売: 2021年9月  
定価: 2,300円(本体)  
発行所: 晃洋書房

美貌格差  
生まれつき不平等の経済学  
ダニエル・S. ハマーメッシュ 著  
望月 衛 訳



ISBN-10: 4492314539  
ISBN-13: 978-4492314531  
発売: 2015年2月  
定価: 1,800円(本体)  
発行所: 東洋経済新報社

人は顔を見れば99%わかる  
フランス発・相貌心理学入門  
佐藤フジ子 著



ISBN-10: 4309631207  
ISBN-13: 978-4309631207  
発売: 2020年5月  
定価: 840円(本体)  
発行所: 河出書房新社